



▲花かんざしで彩られた馬が摩耶山上を練り歩く



迫力ある「柴灯護摩供」が始まると掬星台は一層盛り上がる

ねぎし・まり アウトドア系のブリ  
ライダー。1961年、神戸市須磨  
区生まれ。六甲山を活動拠点として、六  
甲山大学伝聞委員会書記などを務め  
たり。また、六甲山の歴史や文化を  
紹介する著書なども執筆している。  
六甲山の春・夏など。

6 1  
2 6 8 4

◆二つ堂花まつり  
4月8～10日9～17時、摩耶山天売寺金堂  
・摩耶夫人堂（摩耶ロードウェー「星の駅」  
徒歩10分）。祝誕の誕生を祝い、誕生仏に甘露の甘茶をそそぎ、子どもたちの息災も祈る。甘茶の接待あり。入山料無料。予約不要。同寺078-861-2684

◆特集コンサート  
「世界最大級のダンス  
・オルガンで聴く古石  
譲」 3月4日～5月  
12日10～17時の毎時30分から各回約15分間演奏（1日7回）、六甲オルゴールミュージアム（六甲ケーブル「六甲山上」駅から六甲山上バス「オルゴールミ

ュージアム前」）。自動演奏オルガン「デカップ・ダンス・オルガン『ケンペナー』」=写真=はじめ、アンティーク・オルゴール、手回しオルガンなどで人気の「崖上のボニヨ」「さんぽ」など音楽家・久石譲さんの楽曲を演奏する。入館料中学生以上1030円、4歳～小学生510円。予約不要。（3月10、17日休館）。同ミュージアム078-891-1284

ヨーロッパの「モチーフ」。自動演奏オルガン「デカップ・ダンス・オルガン『ケンペナー』」=写真=はじめ、アンティーク・オルゴール、手回しオルガンなどで人気の「崖上のボニヨ」「さんぽ」など音楽家・久石譲さんの楽曲を演奏する。入館料中学生以上1030円、4歳～小学生510円。予約不要。（3月10、17日休館）。同ミュージアム078-891-1284



◆六甲山光のアート「Lightscape in Rokko」～Spring Version～「薰・風」 3月19日～5月31日18～21時、自然体感展望台・六甲枝垂れ（六甲ケーブル「六甲山上」駅から六甲山上バス「六甲ガーデンテラス」）。1000万色以上の色彩表現ができる最新

ヨーロッパの「モチーフ」。自動演奏オルガン「デカップ・ダンス・オルガン『ケンペナー』」=写真=はじめ、アンティーク・オルゴール、手回しオルガンなどで人気の「崖上のボニヨ」「さんぽ」など音楽家・久石譲さんの楽曲を演奏する。入館料中学生以上1030円、4歳～小学生510円。予約不要。（3月10、17日休館）。同ミュージアム078-891-1284

◆六甲高山植物園

特別企画ブータン王国写真展 3月19日～6月5日11時～20時半、TENRAN CAFE（テンラン・カフェ）（六甲ケーブル「六甲山上」駅）。秘境の花と呼ばれるヒマラヤの青いケシをはじめ、ブータンの花々や現地の様子を写真や動画で紹介する。無料（カフェ利用者のみ鑑賞可）。TENRAN CAFE078-891-1011

◆くるくるみつろうキャンドル手作り体験 3月19日～5月31日11～16時、六甲ガーデンテラス内「六甲石ころ亭」（六甲ケーブル「六甲山上」駅から六甲山上バス「六甲ガーデンテラス」）。火をともすとほんのり甘い香りが漂うみつろうのキャ

六甲山にまつわる自然、環境、文学、食などの多彩な催しや情報を、大学のカリキュラムに見立てて情報発信する「六甲山大学」。そのプログラムの紹介を通して、六甲山の魅力に迫ります。（毎月第2火曜日に掲載）

摩耶山では、古くから旧暦2月の初午の日に、一風変わった祭りが行われてきた。山麓に住む人々が飼い馬を連れて山に登り、摩耶山天売寺に参詣するという摩耶詣。西国のお祭りとして知られ、春の季語になり多くの句に詠まれてきた。歴史ある行事を伝えていくため、現在は六甲山牧場の馬に出張をお願いして、実施している。今年は3月の最終土曜日であった26日に予定されている。

午前10時半、天売寺本堂で「産湯の井」の水を本尊にお供えする「關伽御供」から祭りが始ま

根岸真理が案内  
山の四季便利

## 伝統の奇祭「摩耶詣祭」 26日



る。お祝いまでの生誕時、摩耶山の龍神がインドまでこの水を運んで薩摩を使つたと伝わる湧き水だ。続いて菜の花を供える「菜の花御供」。詣でた馬の厄を払つて花かんざしを授ける「御馬詣」と続く。その後、馬と僧侶、巫女、山伏の行列が神戸の街並みを見渡せる摩耶山の名所掬星台へ。

例として、人々は薪や山菜などの幸を産する「里山」を利用。水源でもある「深山」は心の故郷として慕つた。ま

た、神々が宿る遙かな高みにも植えられている。

トサロンが2月25日、神戸三宮のミント神戸で開かれた「摩耶山天売寺の伊藤淨物語」と題して講演した。伊藤さんは8月に「山」が制定されることにちな

て、「山」とはどんな存在だっ

たが、神々が宿る遙かな高みは畏れ敬うなど、山に

持論を話した。

天売寺の山号でもある「摩耶山」は、お祝いまでの生母「摩耶夫人」にちなんだ。古くから広く親しまれ、伝行事も多いが、春は「摩耶詣祭」から始まる。「山にはいろいろな楽しみ方がある。心が疲れたらどこかでぜひ登つてフレッシュしてほしい」と締めくくった。（根岸）

ミントサロンから

摩耶山天売寺  
伊藤淨真副貫主

「六甲山大学」の講座・ミニサロンが2月25日、神戸三宮のミント神戸で開かれた「摩耶山天売寺の伊藤淨物語」と題して講演した。伊藤さんは8月に「山」が制定されることにちな

て、「山」とはどんな存在だつたが、神々が宿る遙かな高みは心の故郷として慕つた。ま



は明確な別があつたという持論を話した。

天売寺の山号でもある「摩耶山」は、お祝いまでの生母「摩耶夫人」にちなんだ。古くから広く親しまれ、伝行事も多いが、春は「摩耶詣祭」から始まる。「山にはいろいろな楽しみ方がある。心が疲れたらどこかでぜひ登つてフレッシュしてほしい」と締めくくった。（根岸）

次回は… 次回は4月28日19時から、東アジア野生植物研究会の森和男さんが「六甲山における六甲高山植物園の価値」と題して話す。講演後、ワインを飲みながらの懇親会もある。500円（ワイン代込み）。希望者は名前、年齢、性別、住所、電話番号、職業を明記し、メール〈mintsalon@kobe-np.co.jp〉で申し込み。六甲山大学事務局078-362-2983

# 六甲山大学

ROKKO-SAN DAIGAKU

わたしたちは 六甲山大学 の活動を応援しています

協賛企業

OJI

JT  
ひとの  
ときを、  
想う。

神戸海星女子学院大学

Daiwa House®

santica  
The New Heart of Kobe 神戸・三宮さんか

TAKENAKA  
想いをかたちに 未来へつなぐ